

ぎめ装置をもつ。この装置により、規定の位置に中ぐり軸または旋削軸の位置を定め、動輪を両センチでささえて関係位置を調整し固定すれば、ケガキ作業を要しないで、中ぐりまたは旋削加工を行うことができる。本機は両頭式で左右同時加工ができるよう単独の駆動装置をもっている。本機はこの直角定規が規準となるものであるから、この定規は常にその精度を維持するよう管理しなければならない。主要機能はつぎのとおりである。

中ぐりしうる最大径 200mm, 外径旋削最大径 200mm, 中ぐり主軸回転数 13~26 rpm (無段階), 送り速度 0.2~0.4mm/rev, 重量約 20t. (山本 稔)

くかんちりつ 区間賃率 運送経費は発着区間における人または物の [移動] に要する費用と、発着両端における [その他の費用] とに分けられる。前者を距離の費用と呼び、これに対するものを区間賃率といい、後者の場所的費用に対する発着手数料とともに基本賃率構成の一要素である。貨物運送は貨物の場所的移動すなわち運送距離の克服がその目的であるから、移動に要する直接的原価に対応する区間賃率は、貨物運賃の構成上重要な要素である。(関根昇一)

くかんてんわせん 区間電話線 交換機に接続しない電話線で、2 駅以上または 1 駅の構外にまたがる回線をいう。主として運転・配車・電力等の専用電話として用いる。

1 つの回線に 2 個以上の電話機を接続して相互に通話することもできる。個別呼出電話機を使用した場合にはとくに個別呼出電話線といい、一せき呼出をすることもできる。(福島武雄)

くかんへんこう 区間変更 旅客が鉄道係員の承諾を得て、旅客運賃を再計算のうえ、相当の手料を支払って、所持する定期乗車券の区間または経路を変更することをいう。

この場合通勤・通学定期乗車券に変更する場合には、旅客は通勤・通学の相当証明書を提出しなければならない。

1 変更時期

使用開始後であればいつでも取扱う。ただし使用開始前の場合には払いもどしをして、べつに変更区間に相当する定期乗車券を購求する。

2 変更箇所

発売した駅または案内所にかぎって取扱う。

3 変更回数

1 回にかぎって取扱う。この場合すでに、種類変更等の他の変更が行われていると否とを問わない。

4 変更区間

原定期乗車券の区間中の 1 駅以上が含まれている区間、または経路であれば変更の取扱をする。

5 変更手数料

原定期乗車券 1 枚について 30 円とする。なお、種類変更等の他の変更を同時に行う場合でも 30 円だけである。

6 旅客運賃の計算方

変更発着区間に対する原定期乗車券の通用期間と同じ期間の定期旅客運賃と、旅客からすでに收受している定期旅客運賃とを比較して、差額がある場合にはその差額に定期乗車券の未使用期間の日数(変更当日は未使用期間に算入する)を乗じ、定期乗車券の総日数で除し、これを端数計算した金額を追徴または払いもどしする。

7 取扱方

原定期乗車券を回収し、それ以後の乗車船用として変更区間に対する定期乗車券を補充式のものによって発行し旅客に交付する。

この場合交付する定期乗車券の券面には、再交付の印(縦・

横 1cm で印影は圓)を押なつする。また券面の表示方は旅客運賃は、不足額を追徴したものにあっては原券の旅客運賃と追徴額(手数料とも)との合計額を、過剰額の払いもどしをしたものにあっては原券の旅客運賃から過剰額(手数料を控除したものを差し引いた残額を、発行月日は変更取扱当日の月日を記入するほか、変更の事由を余白に [区変] の例により記載する。

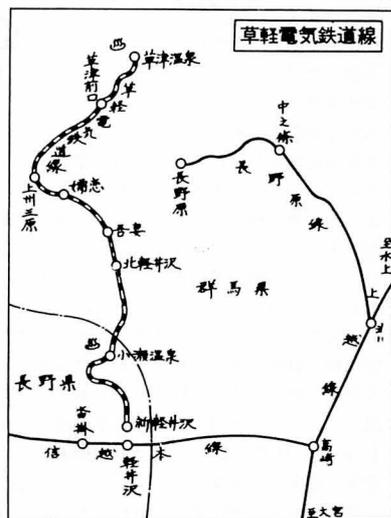
定期乗車券原票には、記事らんには変更当日の月日および事由等を記入し、乗車券番号・種類等の相当欄の記入事項は適宜赤書訂正する。(平林喜三造)

くさがるでんきてつどう 草軽電気鉄道

1 事業者の概要

名称 草軽電気鉄道株式会社, 本社 長野県北佐久郡軽井沢町, 資本金 800 万円, おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線 57 km, 一般乗用旅客自動車運送事業。鉄道従業員 191 人, 保有車両電気機関車 13, 電動客車 2, 客車 10, 貨車 58 両。

沿革 大正 1・9 資本金 70 万円の草津軽便鉄道株式会社として発足し、同 4・7 から営業開始した。大正 13・2 草津電気鉄道株式会社と改称するとともに、同年 11 月全線を電化した。昭和 14・4 に商号を草軽電気鉄道株式会社と変更して現在に至る。



2 地方鉄道線

開業線 信越線軽井沢駅に連絡し、新軽井沢(長野県)・草津温泉(群馬県)間 55.5 km の単線、動力は電気、軌間は 0.762 m で旅客・貨物運輸の鉄道である。明治 43・4・30 免許を受け、新軽井沢・小瀬温泉間 10 km を大正 4・7・22 運輸開始、以後吾妻、碓氷、草津前口に逐次延長し、同 15・9・19 全通した。

3 沿線の観光地

霧積温泉(国境平駅)、浅間高原、鬼押出し、浅間牧場(北軽井沢駅)、小瀬温泉、白糸の滝(長日向、小瀬温泉駅)、草津温泉(草津温泉駅)。

4 運輸概況

(石川 貢)

項目	年 度		
	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	407	442	492
人 キ ロ (千)	6,327	6,968	7,846
貨物輸送トン数(千 t)	52	52	53
ト ン キ ロ (千)	2,143	2,257	2,259
旅客収入(千円)	20,558	24,722	27,384
貨物収入(〃)	20,690	21,312	21,589
運輸雑収(〃)	35	342	509
収入合計(〃)	41,282	46,376	49,482
営業費(〃)	43,030	51,094	54,687
営業利益(〃)	△ 1,748	△ 4,717	△ 5,205
営業係数(%)	104	110	108